

OB紹介



(株)進研アド
山口 哲郎さん
(平成16年度入学生)

—仕事内容を教えてください。

私は、進研アドという会社で、営業の仕事をしています。簡単に言えば、大学の学生募集広報のお手伝いですね。具体的には、高校生を対象にした大学の情報誌や、大学案内、電車の車内広告や、テレビCMの作成を担当しています。毎日、大学に営業派遣に行つて、高校生が今求めているものや、他の大学がどのような打ち出し方をしているかといった情報を伝えて、大学側が求める学生にフィッとした広報戦略を提案していきます。

また、広告を作る際には、学校側の思いを汲み取ったものに仕上がるように、カメラマンやデザイナーや印刷会社に指示を出す、ディレクターの役割を担います。大学の良さを高校生にどう伝えるか、高校生から大学の良さをどう気づいてもらうか、ということに尽きますね。

—現在の仕事を選んだ経緯を教えてください。

私は、環境問題をしたという漠然とした思いから、総科を受験しました。総科で四年間学んでいく中で、他学部の専門科目も履修していったら、いろんなことを幅広く学び、自分が知らないことがたくさんあることに気づきました。このことに高校生の時に気づいていたら、もっと充実した四年間が過ごせたのではないかとも思いました。

そこで、自分のできなかったことを、今の高校生に伝えられる仕事をしたという思いで、就職活動をしました。教員免許は取らなかつたので、予備校やベネッセを志望していたのですが、残念ながらベネッセには落ちてしまいました。その時に、進研アドというベネッセグループの会社を知りました。広告を通して教育を伝えられるって面白いな、と思つて

この仕事を選びました。

—仕事のやりがいについて教えてください。

どんなことにも通じると思うけど、仲間たちと時間をかけて作りあげたものが高校生に届く、自分が携わったものが商品として世の中に出ていく、というのが一番の魅力で、面白いところでもあります。それから、企画をプレゼンテーションして、仕事を勝ち取るというのやりがいです。全国を転々とできるから、その先でおいしいものを食べるという楽しみもあります(笑)。

—総科を選んだことをどう思っていますか。

大学の四年間という時間のある時に、自分の狭い視野を広げて、他の学部もじっくり見ることができました。その中で、自分のやりたいことを改めて考えることができたのはよかったです。それから、総科にはいろんなことに興味を持つている人が集まってくるので、そういった人達と話をし、友達になれるのはいいことだと思えます。自分の進路を決める際に、良い刺激になりました。一方で、深く学ぶことが出来ないから、納得できない人

もいるかな。そういう人は、大学院に行けばいいのだけど……。僕は、大学院には行きませんでした。就職に求められているのは、その研究を極めていくことではなくて、その過程で培った力だと思っただから。

僕は、横藤田先生という障害法学の先生のもとで卒論を書いたのだけど、当時の環境共生科学プログラムは、文系も理科も一つにまとまっている不思議なプログラムで、いろいろな先生の話を書くことができました。また、横藤田先生のアドバイスで、社会福祉の先生にも話を聞く機会がありました。いろんな分野の人と意見をぶつけ合うことで、自分の意見もすっかりしていき、他の人の意見のいい所を取り入れながらも、悪い所はきちんと言い返せるようになりました。

―卒論の研究内容について教えてください。

一・二年生の時は環境問題について学びたかったので、生物学実験や自然環境実習などの授業を取っていました。また、文理融合が総科のモットーなので、社会福祉や社会環境演習のような社会学の授業も履修していました。そして、その時たまたま横藤田先生の『ブラックジャック

クによるしく」というマンガを題材にした授業に出会いました。それは、重い障害を持って生まれてきた子供を治療しにかすべきか、治療をせずに死なせてあげべきかを考えるもので、非常に深いテーマで、強い感銘を受けました。そして、それまでは理系でやってきたのですが、最終的に横藤田先生の研究室に行き、このテーマで卒論を書かせてもらうことになりました。

卒論を書くにあたって、実際に障害を持つているお母さんに話を聞いたり、他の大学の先生とメールをやり取りをしたりしました。その中で、治療拒否という考え方が生まれたのですが、ここで一番問題なのが、子どもの意思がわからないという事です。たとえ親であれ、人の命を絶とうとしているわけだから、虐待にもなりかねないわけだし……。そうしたときに、医師の判断で決めてしまってもいいのかというと、それも非常に難しい。また、子供のQOL（生命の質）の観点からも、生きていく方がいいのか悪いのかを考えてみるなど、深いテーマについて、色々な人から様々な事を聞きながらまとめ、自分なりの卒論を完成させました。

―サークルは何をしていましたか。

大学のサークルは二つ入っていました。ひとつは一年生の時から入っていた「エメロード」という野球サークル。これは、文学部三年生の先輩四人が作った十五〜二十人くらいのサークルで、たまたま入ったという感じでした。一年生もすぐく仲が良くて、野球はもちろんのこと、プライベートでもよく遊びました。ただ、このサークルはちよつと変わったサークルで、サークルなのにもかかわらず、東広島野球連盟というところに登録して、社会人の野球クラブに混ざって試合をしていたんですね。大会を勝ち抜くために、週三〜四回練習していました。一度、東広島のトーナメントを勝ち抜いて、優勝したのは楽しかったです。いい仲間巡りに巡り合えたかなと思っ

す。もうひとつは、こどもクラブというサークルで、平日は週に二回、放課後に活動するのと、土日は小学校とかに行つて、紙芝居とか踊りを一緒にして、小学生と一緒に遊ぶというサークルでした。子どもと遊ぶので、無心になれるというのが楽しかったです。こっちはエメロードと違って、それなりの伝統があるクラブで、そのバランスもちよつと面白かったかな。

—将来の夢・目標を聞かせてください。
ひとつは、この間結婚式を挙げたので、奥さんを幸せにするというか、良い家庭を築いていければなと思っています。そして、良い家庭を築いていくためにも、自分が良い仕事をしないといけないのだなと感じています。

もうひとつは、でっかい仕事をしたいたいということですかね。会社の中でも、どんどん上に昇っていきたいし、大きな仕事も、自分が納得できる仕事も増やしていきたいです。今、自分が出来ていないところを出来るようにして「ああ、いい仕事をしたな」と思えたらいいなと思います。お客さんから「いい仕事をしたね」みたいな声をもらえるように、仕事の質を高めていって、それがゆくゆくはでっかい仕事につながると思っています。

今、目指しているのは、億単位のプロモーション活動を提案して採用してもらうことです。例えば、大学案内や交通広告をこういうデザインで統一していきましようといったような、トータルした大元の提案をして、採用してもらうのが夢です。

—総科生にひとことお願いします。

自分からどんどん積極的に動いてほしいし、いろんな人と交流して人脈を広げていってほしいです。高校までは県内の友達に限られていたと思います。しかし、大学にはいろんな人が集まってきて、そこからいろんなところに散り散りになっていくので、そういう人たちとつながっているというのは、考えている以上に大きな財産になると思います。世界は自分が思っている以上に広いので、どんどん足を動かして、今の自分よりもっと大きく成長できるように、積極的に動いてほしいです。

【担当】

24生 上野 祐介
24生 岡添 りえ

